



国文学研究資料館創立50周年記念事業

国文学研究資料館共同研究「正宗文庫の研究」

第2回 正宗文庫セミナー

正宗文庫は、国文学者で歌人の正宗敦夫【まさむね・あつお、明治14年(1881)-昭和33年(1958)、正宗白鳥の弟】が、丹精込めて蒐集した古典籍・文書・短冊類を中心として昭和10年(1935)に郷里岡山県和気郡伊里村大字穂浪(現 岡山県備前市)に創設した文庫である。所蔵資料は7000点(20000冊)余り、現在は財団法人正宗文庫(正宗千春理事長)によって維持管理運営されている。

【参考】

深井紀夫(ふかいかずお)編『正宗文庫所蔵典籍分類目録 郷土関係編』(正宗文庫発行、非売品、1995年)

正宗文庫調査班(小川剛生主編)「正宗文庫目録(五十音順、典籍編)」(『調査研究報告』29号、国文学研究資料館、2009年3月)

開催日 2022年(令和4年)
9月10日(土) 13:30~16:30

場所 就実大学 S101講義室

講師 **基調講演**

就実大学人文科学部教授
かわさき つよし

川崎 剛志

【演題】「岡山の知識人との交遊と収書 —正宗文庫塚本吉彦旧蔵書をめぐって—」

講演

ノートルダム清心女子大学文学部講師
のざわ まき

野澤 真樹

【演題】「熊谷直好筆『近世崎人伝抜書』に見る刊本書写のありかた」

岡山大学学術研究院社会文化科学学域教授
やまもと ひでき

山本 秀樹

【演題】「吉備津彦の鬼退治話の源流・支流・合流について

—正宗文庫所蔵『備中国吉備津宮御伝記』(文政12年・1829写)を題材に—」

定員 70名

受講料 無料

申込方法 事前申込制 先着順

①Eメール bunko.seminar@nijl.ac.jp

②ウェブフォーム <https://forms.gle/mYf67zaKJm2sHkor7>

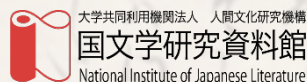
上記いずれかの方法でお申し込みください。後日Eメールにて受講票を送付いたします。
Eメールの場合は、タイトルを「正宗文庫セミナー申込」とし、本文に氏名、氏名ヨミ、メールアドレス、電話番号を記入し送信してください。

受付開始 8月 1日(月)

締切 8月31日(水)17:00 ただし、定員になり次第締切とします。

新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、オンライン開催に変更する場合があります。また、お申し込み時にご記入いただいた個人情報は、当行事運営のためにのみ使用します。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、濃厚接触者等の把握が急がれる場合には、保健所等の公的機関に情報提供する場合があります。

主催
お問い合わせ先



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館
National Institute of Japanese Literature

東京都立川市緑町10-3
HP: <http://www.nijl.ac.jp/>
E-mail: bunko.seminar@nijl.ac.jp

共催
後援 一般財団法人正宗文庫、就実大学人文科学部
備前市教育委員会

お申し込み
はこちら



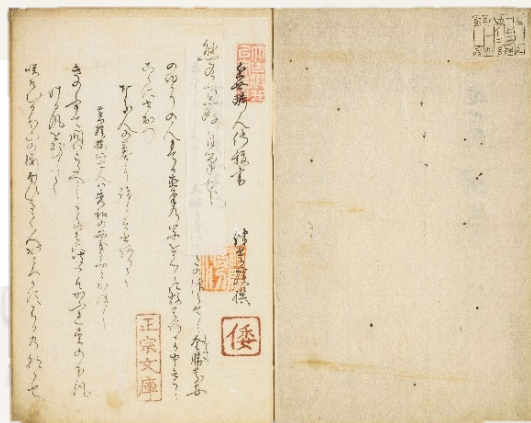
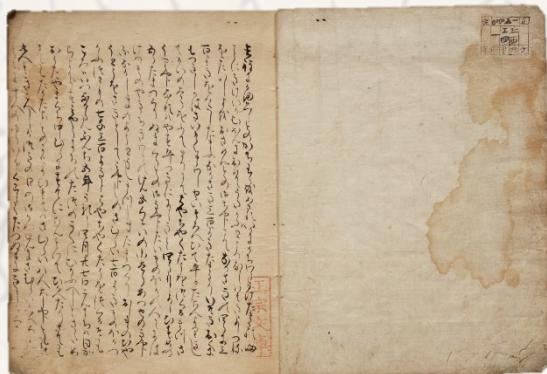


国文学研究資料館創立50周年記念事業

国文学研究資料館共同研究「正宗文庫の研究」

第2回 正宗文庫セミナー

高館草子



近世崎人伝抜書

基調講演

就実大学人文科学部教授
かわさき つよし

川崎 剛志

「岡山の知識人との交遊と収書 —正宗文庫塚本吉彦旧蔵書をめぐって—」

正宗文庫に塚本吉彦旧蔵書が多数収められるのは、若き日、正宗敦夫氏が塚本氏らの創設した吉備史談会に参加し、知識人と交遊を深めた縁によると思われます。岡山の郷土研究の先駆者として知られる塚本氏の旧蔵書には、少数ながら江戸前期の写本や版本も含まれており、蔵書家としての一面を垣間見することもできます。



講演

ノートルダム清心女子大学文学部講師
のぎわ まき

野澤 真樹

「熊谷直好筆『近世崎人伝抜書』に見る刊本書写のありかた」

江戸時代後期に刊行された『近世崎人伝』は、文人・伴蒿溪が著し、「世に知られぬ」隠士たちの伝を集めた書として知られています。正宗文庫には桂園派の歌人・熊谷直好が備忘のために『近世崎人伝』の記事を抄出した『近世崎人伝抜書』が所蔵されています。直好はいかなる意図でこれを書写したのか、刊本との比較を通して検討します。



講演

岡山大学学術研究院社会文化科学学域教授
やまもと ひでき

山本 秀樹

「吉備津彦の鬼退治話の源流・支流・合流について

—正宗文庫所蔵『備中国吉備津宮御伝記』(文政12年・1829写)を題材に—

岡山では著名といってもいい吉備津彦の鬼退治話。その源流にさかのぼると、吉備津宮の縁起(えんぎ)と呼ばれる本になります。ところが、これが不思議と、まったく同じ内容のものはないと言いたくなるくらい、本によって記述にちがひがあります。正宗文庫に所蔵されているこの本もまた、他のものどちがっています。そのことについてお話ししましょう。